

# けやき



No. 626  
2023. 2. 28

京大職組  
文学部支部

2023. 2. 14

## 2022 年度アンケート結果にもとづいて

### 文学研究科長・事務長と懇談

教職員組合文学部支部では、昨年11月に実施したアンケート調査結果（回答数31）をもとに、木津研究科長、上野山事務長と2月14日の昼休みに懇談を行いました。その結果を報告します。

#### 支援職員制度の導入について

組合・事務補佐員の任期が今後1年となることについて、「任期が1年となると業務の引継ぎなど効率が悪くなり、労働条件が悪いために応募者がなく後任が決まらないことが懸念される」など、職員より不安の声が寄せられている。支援職員制度の

導入に際して、文学研究科では部局推薦型の活用に踏み出せていないが、今後の方針について伺いたい。研究科長：この問題は教員側としても深刻な問題であり、職員の方々のチャンスは確保したいという気持ちが高い。文学研究科のような小さな部局の予算の枠内でどれだけできるのか検討している。事務補佐員を1年しか雇用できないという制度になれば事務が滞るということについて、将来構想検討委員会で、専修主任宛てにアンケート調査をすることにになり、アンケートを実施しているところである。複数の研究室の教員が事務を依頼できるような秘書部門を設けてそこに支援職員をおくという

ことが有効かどうかについて調査したいというのが目的のひとつである。組合：部局推薦で支援職員になりたいという意見があると思う。部局推薦で文学部で働きたいという方についてどう思うのか。事務長が職員に意向を聞いたという話も伺ったが。事務長：事務室の事務補佐員とは面談し、制度を説明して働き方について相談した。聞いた中では、できるなら支援職員になることを考えたいという意見は多かった。そういう現場の方々の思いは伝わってきている。予算の都合もあって、今年度は部局推薦型を見送ることになったが、今後文学研究科としてどうするかは考えていきたい。多くの枠を一度に設けるのは厳しいが、そのときに誰を推薦するのが難しい。実際に本部の試験をうけてがんばっておられる方がいるということも

#### 保健診療所の廃止について

聞いている。組合：優秀な方が本部の試験を受けて文学部から出ていかれることもありえるので、部局推薦についてもぜひ検討してほしい。

組合：2021年度末の保健診療所廃止に関して、外国人教員・研究者にとっては、英語が通じやすい大学診療所が、相談しやすい良い窓口になっていたと指摘する声があった。改組された学生総合支援機構は、外国人留学生にも対応しているものの、教員のための機関ではない。国際化をうたう京大において、異国の地でメンタルに不安をかかえやすい外国人教員・研究者への対応やケアが、隠れた課題になる。こうした問題が潜在してい

#### 高等教育センター廃止等について

る可能性について問題意識を共有するとともに、文学研究科としても注意を払うよう、お願いしたい。研究科長：こういう問題があることは把握していた。診療所は推薦状を書いて取り次ぐといったこともしていた。そういうことがなくなるのは困ったことだと思っていた。

組合：高等教育研究開発推進センターと共同で行ってきたプレFDやMOOCについて、今後も継続すべきという意見は24%と決して多数ではないが、他方「中止が当然」という意見はなく、「その他」が40%と非常に多いという結果がえられた。こうした事業の今後について、考えをお聞かせ願えればと思う。また、学内の組織・運営に関する重要な決定が、全学

的な意見聴取を行うことなく大学執行部とその周辺の意向にそって行われていることについて、懸念する意見がみられる。

研究科長は、大学の執行部に対して直接意見を述べたり質問したりすることができるとする立場にあるので、こうした部局教職員の思いも踏まえた発言を期待するが、研究科長の考えもお聞かせ願えればと思う。

**研究科長**…センター廃止によって、PREFDを支援していただけたところがなくなった。何とか文学研究科独自のやりかたで継続していくということについては模索している。MOOCなどの授業提供については大学当局はあらたな取り組みを考えていると聞いている。ただ、このような組織改編の影響が、様々な形で部局に及んでいることも事実である。総合生存学

館については機会があるので教員らの意向を反映する形ですすめていっていただけるよう発言したいと思う。

### 時間雇用職員の雇用条件について

**組合**…長年働き続けても

時間給の昇給がないことを含めて、現在の時間雇用職員の雇用条件が適切かどうかについて、当事者であるなしにかかわらず、疑問を感じている方が非常に多いという結果がでている。文学研究科には、勤務年数の長い時間雇用職員が多数在籍している。また、期限付きで雇用されている方の中にも、継続して働くことを希望される方がおられる。この方たちが、モチベーションを高く持つて日々の業務に従事できるようにするためには、世の中の流れからも、同一

労働・同一賃金への対応が不可欠になってきているのではないかと。できるかぎり支援職員へ移行できるように、配置申請の数を増やす、あるいは時間給を見直す等、研究科として対応できることをお考えいただく、もしくは本部に職場の声をお届けいただきたい。

**事務長**…待遇は部局間でも部局内でもいろいろだ

と思う。確かに京都府の最低賃金が年々上昇しているところであり、個人的には、今の多くの方にとって1200円という時間給が十分かといえ、そうではないと受けとめている。通勤費分を時給に反映させるかどうかの違いもあり、採用の時期によって時間給にアンバランスが生じていることも認識している。例外的措置が廃止されたというのはこの制度を使ってすでに無期転換された方

### その他

と比べると厳しい措置になってきていると思う。機会があれば本部にも声を届けていければと思う。

**組合**…教職員組合文学部

支部では、職員の組合員

減少にともない、今後は

教員が中心になって活動

していくことを考えてい

る。支部の活動のなかで

は、アンケートや研究科

長懇談の継続を求める声

が多くある。今後も懇談

の機会を持つていただき

たいので、よろしくお願

いしたい。

が無期転換してがんばっているのかなど、情報として積極的に発信していただきたい。また、支援職員としてどのくらい雇う見通しかということを知りたい。なお、支援職員については、日時を改めて、お話しする機会をいただければと思う。

**研究科長**…将来構想検討

委員会でのアンケートで

も、支援職員については、

専修ごとの事務補佐員よ

りも事務本体について考

えるのが先決だという意

見もいただいている。た

だ、アンケートは、文学研

究科のような小さな部局

にとっては支援職員制度

が使いづらいものになっ

ているということ、本

部に訴えるためのエビデンスにもなり、機会を見つけて本部に伝えていきたいと思っている。秘書室などの設置については、財源が限られている

ので、今後のやり方だけでは各専修に配分している予算が減ることも覚悟いただく必要がある。組合の方々とも意見交換しながら双方が合意できるとなる形で進めていければと思っている。

**組合**…メディア授業がで

きなくなるということが

どのくらい周知されてい

るのか。その中で授業を

どうしていくのか。教授

会等でも教員に周知して

ほしい。非常勤教員もふ

くめて、来年度から不安

なく授業ができるように

ルールについて周知いた

だければと思う。

